

・“本心の仕事”をする自分に誇りを持つ。

戸田デザインは制作に手間や労力を惜しまず、どんなに時間がかかっても、中途半端な妥協はしない。反面、新刊や新商品が次々と生まれる訳ではない。繰り返し粘り強く既刊本や既存の商品を売っていくことは、大変なことでもある。表面的な説明ではなく、深いこだわりや信じるところをしっかりと伝えなければならないからだ。

本当に自分たちが納得できたものだけを世に送り出すという会社は、実はとても少ない。こだわり抜いた作品を扱い、その作品にしか持ち得ない力を感じ、自社製品を心から信じられるということ自体、本当はとても贅沢なことなのだ。そんな嘘の無い“本心の仕事”が出来る環境にいる自分を自覚し、誇りに思って、突き進んでほしい。

・どんな職場でも通用する思考を持つ。

出版業界は特殊だ。長年、危機感の薄い業界と言われ、「今までのやり方」を変える努力を怠ってきている部分がある。戸田デザインはそうした流れに組み込まれない努力を40年近くしてきた自負もある。しかし気が緩めば、どこかで流されていることもある。安易な方向に流されず、真に可能性を広げる努力をしているか？それは各自が折に触れ自分に問い直さなければならない。仕事の可能性を広げる思考を持っているかどうかは、職場や業界を問わない大事な要素。どんな職場でも通用する考え方、仕事への取り組み方を身につけてほしい。

・ボーダレスこそ、最大の強みだ。

われわれの立ち位置は独特だ。出版社のようであり、デザイン会社のようでもある。扱う作品には、大人も子どももない。これは戸田デザイン最大の強みだ。この独自の立ち位置を得たわれわれが見据える未来は、スゴく広い。業界や国境や年齢や性別など、様々なボーダーを超えていけるだろう。だから、自分たちも、狭い決めごとをしないボーダレスなマインドを持つ。先輩と後輩、ジェンダー、日本と外国、デジタルとアナログ。良いものは、良い。みんなボーダレスだ。

・能動的、提案型でいく。

われわれは少数精鋭のチームである。個々にかかる責任も自ずと大きく感じるときもあると思う。だからこそ能動的・提案型でいてほしい。効率良く動くためにも、各々の個性や特性を遺憾なく発揮するためにも。否定から入らず、できない理由をあげるのではなく、できる方法を常に考えていく。実現に至らず終わることもあるかもしれないが、「未来は拓ける」と思って行動する者にしかその先を拓くことはできないのだから。

・情熱と執着心を持って仕事をする。

結果が出ず、悔しくて涙が流れる。仕事の先行きが心配で、胃がキリキリ痛む。そういう仕事を自分からつくろう。

結果はどうあれ、無我夢中で必死になって仕事をした経験こそ、われわれを大きく成長させてくれる。それが本当のやりがいや楽しさにも繋がる。知識を増やしスキルを磨くことは必須。それに情熱や執着心が加わり、初めて力（ちから）となる。

・心を豊かにし、社会に関心を持つ。

われわれはなぜ、こだわって作品を作り、それを売なのか。それは、読んでくれる人たちの感性が、その人たちの人生が、少しでも豊かになるものを届けたいから。だから働くわれわれも、常に心を豊かにしよう。ファッションでもインテリアでも、すべてのモノ・コトには美がある。自分の感動を大切に、多くのことを吸収していこう。

われわれの作品は、社会とも密接に関わっている。社会の動きに関心を持つ。世の中がなぜそうなっているのか、考えよう。投票には必ず行って、自分の考えを表明しよう。頭と心を磨き続けることで人生は豊かになる。それは仕事でも自分を支えてくれる。それが仕事に反映できたら最高だと思う。